

# 幼児期（3～5歳児）の 食育推進活動における媒体の作成と実践

塩田博子・芳賀絵美子

Creating and using medium for promotion activities of the dietary  
habits education in childhood (the age of 3 to 5)

by

Hiroko Shiota and Emiko Haga

## 要旨

平成18年度より7年間にわたり、学生による幼児の食育推進活動における媒体の作成と実践内容について報告する。本学付属幼稚園2園に於いて、年1回、3～5歳児の子どもたちを対象として、本学学生が身近な材料で作成した媒体を使用し、食育推進活動を行った。幼児期における食生活の改善、また、「食」に対する関心と理解を深め、食を通して、園や家族のコミュニケーションをはかる一助となることを目的として取り組んだ。「子どもたちが食に興味を持ち、食べることの大切さや楽しさを知る」という、幼児期の子どもたちへの食育推進の大切さを再認識することができた。この活動を進めるに当たり、筆者および学生は、子どもたちにわかり易く知識を伝える難しさを認識することができた。

キーワード：食育媒体、食育だより、食育基本法、保育所保育指針、幼稚園教育要領

## 1. はじめに

平成17年に食育基本法が制定され、平成20年には、文部科学省の幼稚園教育要領や厚生労働省の保育所保育指針に、『食育』が「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の五領域のすべてに関連することとして大幅な改訂が行われた。保育所においては、保育士のみならず、「保育士等」として管理栄養士（栄養士）、調理員、看護師などが含まれた表現がなされている。その中で、栄養士の役割として健康時、病中・病後時の食生活について保育所、保護者および

幼児との関わりが重要視されている。

筆者らも、幼児期の食育の大切さを踏まえ、平成18年度より、取り組んできた付属幼稚園と短大の食育についての連携の試み<sup>1)</sup><sup>2)</sup>について報告を行ってきた。これらは筆者らの指導の下、栄養士養成施設校である本学栄養健康学科の学生(ゼミ生、プレゼミ生、食育ボランティア:以下学生と表現する)により、幼児の食育推進活動の活動内容の企画構成、媒体作成、活動について報告してきた。

本稿では、平成18年度より平成24年度までの7年間における幼児の食育推進における媒体の作成と実践内容について報告する。

## 2. 食育推進活動の媒体作成の目的

食育基本法に掲載されているとおり、幼児期における食生活は、健康的な生活をおくることはもちろん、心身の成長、発達に大きな影響をもたらすものである。しかし、現在、朝食の欠食、食事の偏り(偏食)、加工食品への依存、三度の食事を補う間食の重要性や親子のコミュニケーションなど様々な問題が生じてきている。「健康日本21」も幼児期における食生活の問題点を挙げているが、改善に時間がかかり、成果としては、なかなか難しいものとなっている。

筆者は学生とともに、この食育推進活動が、幼児期における食生活の改善、また、「食」に対する関心と理解を深め、コミュニケーションをはかることの一助となることを目的として取り組んだ。

## 3. 媒体の作成と実践

本学付属幼稚園2園に於いて、平成18～24年度、年1回、夏休みの夏季保育中に、各幼稚園のホールで、3～5歳児の子どもたちを対象とした食育推進活動を、本学学生が中心となって作成した媒体を使用して行った。保護者は別室において筆者の食育講話を聴講し、講話終了後、子どもたちの食育推進活動を参観することとした。

この活動に使用する媒体は、子どもたち参加型の媒体やエプロンシアター、ペープサートなどを使ったおはなしやクイズなどとし、身近な材料で、子どもたちが媒体に手を触れ、興味を持ってもらえるように①色使い、②手触り、③大きさ、④媒体の素材、⑤色画材などを考慮した。また、市販の教材を取り入れた場合は、対象園児に理解や興味を持てるように表現法方法を考え、園からの要望にも応えられるような内容にアレンジを加えた。

平成18～24年度の活動テーマと作成媒体を表1に示した。また、主な作成媒体と実践活用は次のとおりである。

表1. 年度別作成媒体

作成年度	活動テーマ	作成媒体
平成18	食べ物とうんち	① 3つの食品群(赤・黄・緑)の汽車ぼっぼ ② エプロンシアター用ペーパーサート
平成19	この食品のおいしい季節はいつでしょう?	③ 春夏秋冬の汽車ぼっぼ ④ 春夏秋冬の料理カード ⑤ お誕生月の季節の食品のメダル
平成20	皆で大きなお弁当を作ろう	⑥ ダンボールで大きなお弁当箱と料理
平成21	食べ物の仲間とはたらき	⑦ はてなボックス 何が入っているかな? ⑧ 野菜の切り口のスタンプラリー
平成22	夏野菜がどのように出来、食べたらどうなるかを知る	⑨ 野菜の成長の記録当てクイズ
平成23	夏の暑さをのりこえよう	⑩ 壁面媒体<3つの食品群(赤・黄・緑)の汽車ぼっぼの改良版 ⑪ 春・夏・秋・冬の季節の食品パズル(年少6ピース)(年中8ピース)(年長12ピース) ⑫ 夏・秋の季節の食品のメダル
平成24	みどりの食品、好きになろう	⑬ 平成21年度の野菜の切り口スタンプラリーの改良版

### 3・1・1 3つの食品群(赤・黄・緑)の汽車ぼっぼ(平成18年度)の作成について

3つの食品群に分けられ、食品の働きが群別されていることについて学ぶことを目的とした。3つの食品群の汽車<sup>3)</sup>をもとに、模造紙に汽車と3色の貨車を書き、「3つの食品群(赤・黄・緑)の汽車ぼっぼ」を作成した。ホールの壁面に、すべてをつなぎ合わせて貼り、幼児に、食品には主に3つの働きがあり、食品をどのように群別するかを説明した後、「これはなに?」「好きですか?」「何色の貨車に乗せたらいいかな?」などを尋ね、手を挙げた



図1 3つの食品群(赤・黄・緑)の汽車ぼっぼ

子どもたちに、前に出て来てもらい、答えた後、貨車に貼ってもらうものとした(図1)。

### 3・1・2 3つの食品群(赤・黄・緑)の汽車ぼっぼの実践活用について

壁面に汽車を貼る位置を、園児が食品を貼る高さに合わせたため、見る側に見づらいという問題が生じた。また、模造紙で作った食品を汽車に貼る場合、セロテープで貼ったため、土台の模造紙で作った汽車が破損しそうであった(図2)。

3つの食品群によって食品の働きが群別されていることの学習を、年少児に望むことは困難だったが、年長児、年中児を見ながら、この雰囲気を楽しんでいた様子である。

園長より、『園児たちはとても楽しく「食」に興味を持つことができた。おはなしの後の昼

食は持参弁当でしたが「良く噛んで残さず食べようね。」「はーい」と言うように、とても楽しく美味しく皆で食べた。帰宅後は、「お姉ちゃん達のおはなしをママに話したよ。」「朝ご飯のときに果物も食べたよ。」など食育活動の翌日には伝えにきていた。』との報告を受けた。



図2 3つの食品群の汽車ぼっぼに園児が食品を貼っている様子

### 3・2・1 エプロンシアター用ペープサート(平成18年度)の作成

食べたものが、どのように消化吸収され、どうしたらバナナのようなうんちになるかということについて学ぶことを目的とした。エプロンシアター用の媒体として、市販の教材<sup>4)</sup>(吉田隆子:食育エプロン バナナうんちは元気なしょうこ 何でも食べる元気なまあちゃん、株式会社メイト)を選んだ。対象が3～5歳児と年齢幅もあり、体の中で食べ物がどのように変化していくか、内容にあわせて食べ物や胃の中の食べ物の状態や出てくる消化液などのペープサートを作成した(図3)。また、ペープサートの材料は、画用紙、割り箸、ポスターカラー、絵の具、のりなど身近な材料を使用した。



図3 エプロンシアター用ペープサート

### 3・2・2 エプロンシアター用ペープサートの実践活用について

「3つの食品群の汽車ぼっぼ」と関連づけて行った。ペープサートで解説を行っていくことでエプロンシアターは、実際に口からどのように入っていく、なぜしっかり噛まないといけないのか、園児たちはうなずく様子で真剣に聞いていた(図4)。また、小腸の長さにも驚き、健康的なうんちについても理解していた。食べ物の役割の大切さも、終了後の会話から、年長児はよく、続いて年中、年少児は少し理解できていたようであった。



図4 エプロンシアター用ペープサートを行っている様子

### 3・3・1 春夏秋冬の汽車ぼっぼ（平成19年度）の作成

食品にはおいしい季節があり、収穫時期と旬について学ぶことを目的とした。平成18年度に作成した「3つの食品群（赤・黄・緑）の汽車ぼっぼ」の機関車を利用し、模造紙に春・夏・秋・冬の貨車を描き「春夏秋冬の貨車の汽車ぼっぼ」を作成した（図5）。

食品は「3つの食品群（赤・黄・緑）の汽車ぼっぼ」で使用した野菜や果物、魚などの食品カードを各季節に分けて使用した。



図5 春夏秋冬の汽車ぼっぼ



図6 春夏秋冬の汽車ぼっぼでクイズを行っている様子

### 3・3・2 春夏秋冬の汽車ぼっぼの実践活用について

食品カードを見せてどの季節の食品なのか当てるクイズを行った（図6）。園児の積極的な挙手と、とても元気のいい返事により、クイズを進めることが出来た。

園長先生より「最近では大人もなかなか食品の季節がわからないことが多いが、子ども達にこのように教えてもらうことは、とてもいいことだと思う。」との意見をいただいた。

### 3・4・1 春夏秋冬の料理カード（平成19年度）の作成について

季節の食材を使って様々な料理を作ることができることについて学ぶことを目的とした。画用紙に、今回の食育の時期に合わせて夏の食材を使用した（図7）。幼児にも食べやすいよう



図7 春夏秋冬の料理カード(後部)



図8 春夏秋冬の料理カードによる材料別料理の紹介

な、また、日常食すことが多い食品を使った料理を、画用紙に描いて料理カードとした。

### 3・4・2 春夏秋冬の料理カードの実践活用について

「春夏秋冬の汽車ぽっぽ」の話の流れに沿って、今の季節（夏季実施）の食材がどのような料理に使われているか「料理カード」として紹介した（図8）。食品の料理への変化をしっかり聞き、ピーマンについては、「肉詰めはしない」、「ハンバーグの中にピーマンが刻まれている」、「ハンバーグの横についている」、「家では食べない」など多くの意見がでた。また、キュウリやトマトなどについても偏食を含め、「こんなのだったら食べられるよ。」「こんなの嫌い」などの意見が出た。

その後、季節の野菜は栄養豊富でおいしいと、学生が説明を行うことにより、多くの子どもたちより、「これからは頑張ってみる」という反応を挙手によってもらうことができた。

食品にヨーグルトを使ったものを紹介すると、アレルギーのある園児が、「ヨーグルトは食べられない」とはっきりした声で発言したが、担当者がヨーグルトを使わない料理法を話すことにより、子どもたちも納得する場面があった。

園長先生より「園児たちも季節と食品の組み合わせが分かってきたように思う。また、季節の食べ物が一番おいしいと言うことも分かってきたと思う。しかし、おいしい野菜もお弁当となると、なかなか十分に使えていないようである。」との意見をいただいた。

### 3・5・1 お誕生月の季節の食品のメダル（平成19年度）の作成について

メダルに描かれている食品が、自分の生まれた月や季節の旬の食品であることを認識することと、自宅へ持ち帰り、家族と「食」についてのコミュニケーションを図ることを目的とした。直径13cmの円形に切った厚紙に、季節の食品を描き、首にぶら下げられるようにリボンを付けて、「お誕生月の季節の食品のメダル」とした（図9）。



図9 お誕生月の季節の食品のメダル



図10 お誕生月の季節の食品のメダルをプレゼント



### 3・5・2 お誕生月の季節の食品のメダルの実践活用について

子どもたちが、手を広げてホールいっばいに大きな円を作り、音楽と共に誕生月ごとに円の中央に集まり、お誕生月の季節の食品のメダルを首にかけてもらった（図10）。子どもたちは、嬉しそうにメダルの見せ合いをし、そのメダルに描かれている食品が「好き」「嫌い」「食べられるようになるかな?」「帰ってママに見せる」など、お友達や先生と話していた。

### 3・6・1 ダンボールで大きなお弁当箱と料理（平成20年度）の作成について

園に持参するお弁当の中身については、保護者へ認識を高めることも大切であるが、子どもたち自身が好き嫌い無く、お弁当でも3つの食品群（赤・黄・緑）の食品を食べることが大切であると学ぶことを目的とした。ダンボール箱（45cm×90cm）に色画用紙を貼り、大きなお弁当箱2段を作成した。子どもたちが手に持って貼れる大きさを考慮し、主食：主菜：副菜が3：1：2の量で入るように画用紙にポスターカラーや絵の具、クレパスなどでお弁当箱に似合う大きさの主食（おにぎりやスパゲティなど）、主菜（卵焼き・フライドチキン・卵焼きなど）、副菜（煮しめ・野菜の炒め物など）、添え物（トマト・ブロッコリーなど）を画用紙に描き、セロテープでお弁当箱に貼るようにした（図11）。



図11 ダンボールで作った大きなお弁当箱と料理カード

### 3・6・2 ダンボールで大きなお弁当箱と料理の実践活用について

子どもたちの好きな料理や嫌いな料理など、大きなお弁当箱に入れる料理を紹介し、平成18年度に作成した「3つの食品群（赤・黄・緑）の汽車ぼっぼ」にその料理を貼って、はたらきを説明した（図12）。子どもたちは、説明を熱心に聴いた後、活発に挙手をしてお弁当箱



図12 大きなお弁当用の料理カードの説明



図13 子どもたちが大きなお弁当を作っている様子

に料理カードを貼り、大きなお弁当作りを行った(図13)。「嫌いなものでも、お弁当箱に入れてもらって食べる」と大きな声で約束してくれた園児もいた。

園長先生より、「この内容を作るのはとても大変だったと思う。とても興味を引く内容であり、分かりやすく進めていたので、今日休んでいた子どもたちも参加させたかった。夏季保育ということで参加者が少なかったことがとても残念であった。またの機会を設けてほしい。1週間に2度のお弁当持参があるが、なかなかお母さん方もお弁当には苦戦している。今日の内容はお母さん方にも参考になると思う。」との意見をいただいた。

### 3・7・1 何が入っているかな?はてなボックス(平成20年度)の作成について

はてなボックスの中身を触ることで、どのような食品であるか想像して答え、これらの食品にはどのような働きがあるかを学ぶことを目的とした。ダンボール箱の底をくり抜き、両脇から手が入るように穴を開け、箱の中に手を入れられるようにした。ボックスの色は、「3つの食品群(赤・黄・緑)の食品群」と同色にし、その食品群の食品を入れることにした(図14)。



図14 何が入っているかな?  
はてなボックス



図15 何が入っているかな?はてな  
ボックスで探している様子

### 3・7・2 何が入っているかな?はてなボックス実践活用について

箱の中には食品が入っていることを伝えていたが、子どもたちは「何が入っているかな」と不安な様子で手を入れていた(図15)。年長児や年中児の多くは箱の中の食品を当てることができたが、年少児には少し難しく、多くの園児が学生からヒントをもらい回答していた。

粉物にも種類があることを園児たちにも認識してもらうため、参観していた保護者に参加してもらった。園児の応援に保護者も真剣になり、ナイロン袋に入れていた粉物(片栗粉や小麦粉など)の触感を再認識するという場面もあった。当てたものは18年度に作成した「3つの食品群(赤・黄・緑)の汽車ぽっぽ」に貼り付けて説明した。

### 3・8・1 野菜の切り口のスタンプラリー(平成21年度)の作成について

店舗や家庭の冷蔵庫などにある野菜が、調理をすることにより、どのような形になるのか。





図16 野菜の切り口のスタンプラリー



図17 野菜の切り口を説明



図18 野菜の切り口のスタンプラリーの様子



図19 野菜の切り口のスタンプラリーの出来上がり

また、半分に切った野菜などの切り口はどのようになっているかを観察することを目的とした。八つ切り画用紙にヒントとスタンプを押す位置を書きスタンプラリーの台紙とした(図16)。各台の野菜のスタンプの場所には、まだ字の読めない子どもたちにも分かりやすいように、野菜の絵の旗を作成して設置することとした。

### 3・8・2 野菜の切り口のスタンプラリーの実践活用について

「はてなボックス」の野菜を半分に切り、園児に切り口の実物を見せて形を観察させた(図17)。子どもたちは、「スタンプラリー」の開催を今か今かと待ちきれない様子であった。参観していた保護者や先生と台紙に描いてある野菜の名前やヒントを考えながら、各野菜の絵の旗のあるテーブルに行き、野菜スタンプを綺麗に押していた(図18)。

園長先生より「野菜のスタンプラリーは趣向を凝らした内容でとてもよかった。園児たちも、実物の野菜と切ったらこのような形になるという関連性が少しわかったように思います。野菜に興味を持ち、とてもよい作品になりました。出来上がった作品(図19)は良く乾かし、シワにならないように、大事に持って帰らせます。」という意見をいただいた。

### 3・9・1 野菜の成長の記録当てクイズ(平成22年度)の作成について

野菜がどのようにして成長し実が生るか、また、成長することから命の尊さについて学ぶことを目的とした。5月、プランターにトマト、ナス、ピーマン、キュウリの苗を植え、観察した苗、葉、花、実、割った実を時期ごとに写真撮影した(図20)。野菜の成長記録が合致するように、それぞれの状態の時期写真をカードにし、ホール壁面に順不動に貼り付け、それぞれの野菜の成長に合わせて紙テープで結ぶようにした(図21)。



図20 5月 苗植えの様子



図21 野菜の成長の記録当てクイズ

### 3・9・2 野菜の成長の記録当てクイズの実践活用について

実際に、観察経験や辞典などで認識できている子どもたちの一部は、<苗、葉、花、実、割った実の中身>の関連が理解できているが、そのほかの子どもたちには少し難しく、進めていくうえで説明にも困難を要した。学生も、園児に理解してもらえるように、時間をかけて、さまざまな質問やヒントを出すことにより、<苗、葉、花、実、割った実の中身>を結びつけることができた(図22)。多くの園児が、新しいものの発見に興味を示し、答えてくれ、野菜の成長の段階についても理解を示していた。



図22 野菜の成長の記録当てクイズに参加している様子

園長先生より、「成長記録がよくわかるので、一覧にして園に掲示したい。」との声があり、数部作成し、後日手渡し、廊下や教室に掲示してもらうことができた。平成24年度幼稚園研修会にも展示を行ったと報告を受けた。

### 3・10・1 「3つの食品群(赤・黄・緑)の汽車ぽっぽ」の改良版(平成23年度)の作成について

平成22年度までに「3つの食品群(赤・黄・緑)の汽車ぽっぽ」を何度となく使用したた



図23 「3つの食品群（赤・黄・緑）の  
汽車ぼっぼ」の改良版



図24 「3つの食品群（赤・黄・緑）の  
汽車ぼっぼ」の改良版を使用し  
て説明を行っている様子

め、汽車の破損が大きくなり、使用が困難になった。そのため、容易に持ち運びができ、耐久性のある布に汽車を描いた（図23）。これは布用マーカーで教員が図案を描き、学生と色付けを行った。また、食品カードもこれまでに作成したものをラミネートし、長期使用可能なものとした。

### 3・10・2 「3つの食品群（赤・黄・緑）の汽車ぼっぼ」の改良版の実践活用について

4メートルの長さの布のため、重量があり、掲示方法を考える必要があることが分かった（図24）。また、食品を貼り付ける際、セロテープを使用するが、これについては難を要することなく行うことができ、耐久性にも強い媒体となった。

### 3・11・1 春・夏・秋・冬の季節の食品パズル（平成23年度）の作成について

食品の旬（出回り時期やおいしさ）と旬の仲間について学ぶことを目的としたパズルを作成した。パズルは年少6ピース、年中8ピース、年長12ピースを作成した。広い部屋で、グループに分かれて組み立てられるように、出来上がりが90cm×120cmのパズルを、段ボールを土台とし、各ピースを模造紙に描き、ピース毎に段ボールに貼りつけて季節と旬の食品が一目でわかるように作成した（図25）。



図25 夏・秋の季節の食品パズル

### 3・11・2 夏・秋の季節の食品パズルの実践活用について

パズルは、園のホールに広げ、各年齢に分かれて組み立てた。各季節の食材は、どの年齢の子どもたちも身近に食している食品が多く、食品名をすぐに当てることができた。また、パズ



図26 季節の食品パズルに参加している様子①



図27 季節の食品パズルに参加している様子②

ル自体に興味を持つ年齢のため、季節の食材の認識についても、グループの中で、「これはトマト」「私は好きよ」「～ちゃんはトマト好き」「おばあちゃんの家の畑にできているよ」など、多くの会話が飛び交いながら、それぞれ組み合わせていた(図26、図27)。また、年少児が6ピース、年中児が8ピース、年長児が12ピースのパズルと決めていたが、他年齢児のパズルにも興味を持ち、最終的には全員が仲良く、すべてのパズルを行った。

また、ホール壁面に貼っておいた平成19年度に作成した「春夏秋冬の汽車ぼっぼ」の貨車に、年長児が中心になって、学生と一緒にパズルに載っている食品と同一の食品カードを、季節を確認しながら貼り、それぞれの食品の季節を再認識していた。

### 3・12・1 夏・秋の季節の食品のメダル(平成23年度)の作成について

子ども自身が、季節の旬の食品であることを認識することと同時に、子どもがメダルを家に持ち帰ったことにより、家族と「食」についてのコミュニケーションを図る手掛かりになることを目的とした。直径13cmの円形に切った厚紙に、パズルにある食品を描き、首にぶら下げられるようにリボンを付けて、〈お誕生月の季節の食品のメダル〉として、お土産に渡すものとした(図28)。



図28 夏・秋の季節の食品のメダル



図29 夏・秋の季節の食品のメダルを首にかけてもらっている様子

### 3・12・2 夏・秋の季節の食品のメダルの実践活用について

パズルができたご褒美に、お土産の「夏・秋の季節の食品のメダル」を、学生が園児一人一人に話しかけながら首にかけてあげた。このメダルを、家に持ち帰ったことにより、家族と「食」についてのコミュニケーションを図る要因になることを願っている（図29）。

### 3・13・1 平成21年度の野菜の切り口スタンプラリーの改良版（平成24年度）の作成について

3つの食品群（赤・黄・緑）の緑の仲間の野菜を好きになることと、調理した野菜の切り口がどのようになっているかを観察することを目的とした。夏の野菜を中心とした野菜の切り口スタンプラリーの改良版を作成した（図30）。平成21年度使用の食材では、切断面に特徴のない人参を星形に型抜きし、サツマイモでも版を作るなどして使用したが、改良版では3つの食品群（赤・黄・緑）の緑の仲間のレタスと生シタケの断面を使用することとした。



図30 平成21年度の野菜の切り口スタンプラリーの改良版の台紙と旗



図31 スタンプラリー導入へのエプロンシアター



図32 平成21年度の野菜の切り口スタンプラリーの改良版に参加している様子

### 3・13・2 平成21年度の野菜の切り口スタンプラリーの改良版の実践活用について

3つの食品群（赤・黄・緑）の緑の仲間を好きになろうというテーマのため、平成23年度の「3つの食品群（赤・黄・緑）の汽車ぽっぽ」の改良版と、平成18年に行った食べ物とうちんちの話で使用したエプロンシアターを説明し（図31）、スタンプラリーを行った。この流れにより、緑の食品群への理解もスムーズに行うことができ、「好き嫌いをせずに食べる」と多くの子どもたちが声をだし、スタンプラリーを楽しんでいた（図32）。



#### 4. まとめ

活動内容については、食育基本法をもとに、毎年対象園児の保護者に行ったアンケート調査や幼稚園の先生方よりご意見をいただいたことを参考に、筆者の指導により、学生が企画構成を行った。そのため、内容については、単年毎の内容となっている。

媒体の作成については、色使い、手触り、大きさ、色画材などを考慮して作成に臨むことができたが、媒体の素材については、年度計画のため、段ボールや画用紙、大判用紙など、身近な材料を使用しての作成になるため、長期間の使用が困難であった。これらの問題については、身近な材料の中でも、布を使用した「3つの食品群(赤・黄・緑)の汽車ぽっぽ」のように、長期使用できる媒体を考案していくことが今後の課題である。

実際に食育を行っていく中で、実践活動中の子どもたちの反応により、『子どもたちが食に興味を持ち、食べることの大切さや楽しさを知る』という、幼児への食育推進の大切さを、再認識することができた。しかし、年に1回の食育推進活動だけでは、十分な成果が出ているとは言いがたい。このことから、繰り返し活動を行うことの必要性を感じた。今後、学生の活動時間を増やし、作成した媒体を使用し、繰り返して推進活動を行うことで、子どもたちの食に対する認識や理解の向上に期待できると思われる。また、異年齢児混合のため、理解度の違いが生じていた。園との話し合いを持ち、より良い進め方を考えていくことが今後の課題である。

この活動を進めるに当たり、筆者および学生は、子どもたちにわかり易く知識を伝える難しさを認識することができた。その為、幼児の心理および行動や言動について、今以上に理解することが必要であると思われる。

#### 謝辞

平成18年度より幼児の食育推進活動を継続することにあたり、本学付属第一幼稚園、第二幼稚園の先生方や保護者・園児の皆様方にご協力いただき、感謝申し上げます。

#### 引用文献

- 1) 塩田博子・木村秀喜：付属幼稚園と短大の食育についての連携の試み(第一報)―連携のいきさつから実施状況報告―，下関短期大学紀要，第25号，115-122(2007)
- 2) 木村秀喜・塩田博子：幼稚園児の食生活習慣―食育推進のための基礎調査結果―，下関短期大学紀要，第25号，79-86(2007)
- 3) 坂本元子：子どもの栄養・食教育ガイド，医歯薬出版株式会社，144-146(2001.7.15)
- 4) 吉田隆子：食育エプロン バナナうんちは元気なしょうこ 何でも食べる元気なまあちゃん，株式会社メイト